

パプアニューギニア・LNGプロジェクトの基本設計(FEED)開始について ～LNGプロジェクト事業化に向け大きく前進～

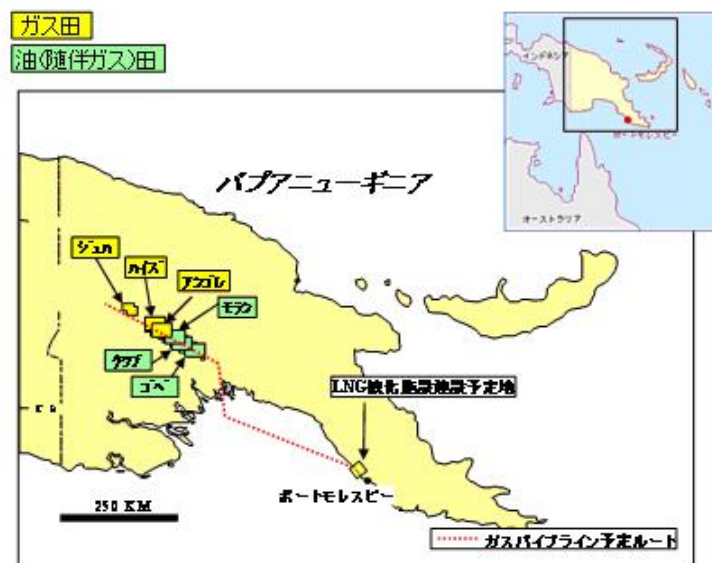
記者各位

当社(社長:西尾 進路)グループの石油開発部門である新日本石油開発株式会社(社長:古関 信)が出資する日本パプアニューギニア石油株式会社の100%子会社(マーリンペトロリアム)は、5月22日(木)、パプアニューギニア独立国でのLNGプロジェクト事業化に向けた基本設計(Front End Engineering and Design)を開始することについて、プロジェクト参加企業間で合意しましたので、お知らせいたします。

本プロジェクトは、パプアニューギニア独立国における初めてのLNGプロジェクトで、LNGの生産数量は年間630万トンを見込んでいます。パプアニューギニア中央部のサザンハイランズ州およびウエスタン州に位置するガス田(ジュハ、ハイズ、アンゴレ)および油・ガス田(モラン、クツブ、ゴベ)から生産される天然ガスを、全長700キロメートルを超えるパイプラインで首都ポートモレスビーの近郊まで輸送し、今後建設を予定しているLNGプラントで液化する計画です。

今回の基本設計開始の合意に先立ち、パプアニューギニア独立国政府と、当社を含む本LNGプロジェクト参加企業との間で、事業に適用される税率やパプアニューギニア国の事業参加条件等、本LNG事業実施のための基本条件を規定した契約を締結致しました。今後、他のプロジェクト参加企業と共に、プロジェクト基本設計(FEED)の実施と並行して、LNGマーケティング、資金調達計画等を検討し、2013年後半のLNG生産開始を目指した事業化についての最終判断を行ってまいります。

<パプアニューギニア LNGプロジェクトの位置図>



[パプアニューギニア・LNGプロジェクト参加企業の概要 \(75.4KB\)](#)